

早稲田大学 教育学研究科
修士課程 入試問題の訂正内容

<2023年度 一般・外国学生入試 国語教育専攻>

【専門科目】

●問題冊子11ページ :【共通二】 本文12行目

(誤)

自雲の…

(正)

白雲の…

●問題冊子11ページ :【共通二】 問一設問文

(誤)

傍線①「おはしましし」…

(正)

傍線①「おはしまし」…

以上

二〇二三年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般入学試験問題

【専門科目】 【国語教育専攻】

解答上の注意

一. 国語教育専攻の入学試験問題は、「専門科目・選択」（配点60％）と「専門科目・共通」（配点40％）とに分かれています。

①「専門科目・選択」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（選択一～選択七）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・選択」で 解答すべき問題
国語科教育研究指導	幸田 国広	選択一 国語教育
日本語学研究指導	松本 正恵	選択二 日本語学（日本語教育を含む）
国文学研究指導	松本 直樹	選択三 古典文学 I 上代文学
国文学研究指導	新美 哲彦	選択四 古典文学 II 中古文学
国文学研究指導	福家 俊幸	選択五 古典文学 III 中世文学
国文学研究指導	田淵 句美子	選択六 中国古典文学
国文学研究指導	内山 精也	
国文学研究指導	堀 誠	
国文学研究指導	石原 千秋	
国文学研究指導	金井 景子	選択七 近代文学
国文学研究指導	五味 潤 典嗣	
国文学研究指導	和田 敦彦	

②「専門科目・共通」（共通一～共通二）は、志願者全員が解答する問題です。

- 二. 「専門科目・選択」「専門科目・共通」とともに、解答用紙は「問題番号」ごとに一枚ずつ使用すること。
- ・ 全ての解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名を必ず記入すること。
 - ・ 「専門科目・選択」については、空欄に「問題番号」（例「選択一」「選択二」など）を必ず記入すること。
 - ・ 「専門科目・共通」については、「共通一」「共通二」それぞれ所定の解答用紙を用いること。

三. 解答用紙のホッチキスは、はずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。

四. 問題用紙は「十一枚」（本ページ含む）、解答用紙は「三枚」です。必ず枚数を確認すること。

以上

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

「選択一」 国語教育

一、次のA～Hのうちから三題を選び、それぞれ簡潔に説明しなさい（※解答に際しては選択した問題記号を明記すること）。

- | | | | |
|---|--------------|---|---------------|
| A | 生活綴方教育 | B | 言葉による見方・考え方 |
| C | 雑誌『教育・国語教育』 | D | 大村はま |
| E | 情報の扱い方に関する事項 | F | カリキュラム・マネジメント |
| G | 「サクラ」読本 | H | 指導と評価の一体化 |

二、次のI～Nのうちから二題を選び、具体的に解説しなさい（※解答に際しては選択した問題記号を明記すること）。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| I | 森岡健二の「文章構成法」 |
| J | 総合的な探究の時間と国語科の役割 |
| K | PISA型読解力の特徴 |
| L | 一読総合法と三読法 |
| M | 文部省著作教科書『中等国語』（昭和二十二年）における漢文の位置付け |
| N | 時枝誠記の古典教育論 |

三、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成三十一年三月二十九日 初等中等局長）に基づき、「内容のまとまりごと」の評価規準」を作成する際のポイントについて、中学校「B書くこと」領域の具体的な単元事例を挙げて説明しなさい。

なお、評価の観点としては、必ず「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を設定すること。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

〔選択二〕 日本語学

一 次のA～Lの事項のうちから四題を選び、説明しなさい。（解答の際には、選択した問題番号を明記すること。）

A	ファイラー	B	シソーラス	C	サジェストペディア
D	授受表現	E	言語地理学	F	日葡辞書
G	複合辞	H	プロミネンス	I	上代特殊仮名遣い
J	時枝誠記	K	デイスコース	L	生成文法

二 次のM～Oのうちから一題を選び、具体的に論じなさい。（解答の際には、選択した問題番号を明記すること。）

- M 日本語史の時代区分とそれぞれの時代の日本語学的な特徴
N 現代敬語の五分類について
O 日本語における「文法化」現象

三 日本語学が研究対象としている範囲・分野について、専門外の人にもわかりやすいように、具体例を交えながら説明しなさい。その際、研究方法や隣接領域にも触れ、日本語学研究の意義が明確になるように論じなさい。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

〔選択三〕 古典文学（I） 上代文学問題

一、次の（A）～（D）のうちから、二題を選択して論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- （A）『古事記』偽書説
- （B）『先代旧事本紀』の主題と構成
- （C）「山川原野名号所由」
- （D）発生期の和歌

二、次の（E）～（K）のうちから、三題を選択して簡潔に（二題あたり解答用紙五行以内）説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- （E）メルシナ型神話
- （F）出雲臣廣嶋
- （G）大伴旅人
- （H）『万葉集』巻一
- （I）貴種流離譚
- （J）行路死人歌
- （K）『播磨国風土記』

三、上代文学作品の享受の歴史を踏まえ、その国語科教材としての意義について、具体的かつ簡潔に（解答用紙一〇行以内）考えを述べなさい。

（上代文学問題 以上）

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

〔選択 四〕 古典文学（Ⅱ） 中古文学

解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次の(A)～(D)のうち、二題を選択して論述せよ。

- (A) 『伊勢物語』と『古今和歌集』との関係
- (B) 『和泉式部日記』の特質
- (C) 『源氏物語』の古注釈
- (D) 『源氏物語』の諸本研究の意義

二、次の(E)～(M)のうち三題を選択して、簡潔に説明せよ。

- (E) 『大和物語』
- (F) 『成尋阿闍梨母集』
- (G) 『夜の寝覚』
- (H) 『栄花物語』
- (I) 『讃岐典侍日記』
- (J) 『堤中納言物語』
- (K) 藤原彰子
- (L) 草子地
- (M) 平安時代の文学における後宮

三、中古文学を学校教育で学ぶ意義とは何か、あなたの考えを述べよ。

二〇二三年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択五〕 古典文学 (Ⅲ) 中世文学

一、次の①～⑥の中から二題を選択して、詳しく論述しなさい。

- ① 『堀河百首』の和歌史的意義について
- ② 歌合の文学史的展開について
- ③ 勅撰和歌集とその周縁について
- ④ 歌学書・歌論書の成立と展開について
- ⑤ 教訓書・女訓書の特徴と受容について
- ⑥ 両統迭立と文学について

二、次の①～⑩の中から三題を選択して、簡潔に説明しなさい。

- ① 藤原俊成
- ② 方丈記
- ③ 古事談
- ④ 建礼門院右京大夫集
- ⑤ 今物語
- ⑥ 阿仏尼
- ⑦ 玉葉和歌集
- ⑧ 弁内侍日記
- ⑨ 夫木和歌抄
- ⑩ 徒然草

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択六〕 中国古典文学 問題

□ 次の文は唐・韓愈の「送孟東野序」である。この文を読んで、設問に答えなさい。

① 大凡物不得其平則鳴。草木之無聲、風撓之鳴。水之無聲、風蕩之鳴。其躍也或激之、其趨也或梗之、其沸也或炙之。金石之無聲、或擊之鳴。人之於言也亦然、有不得已者而後言。其歌也有思、其哭也有懷、凡出乎口而爲聲者、其皆有弗平者乎。樂也者、鬱于中而泄于外者也。擇其善鳴者而假之鳴。金・石・絲・竹・匏・土・革・木八者、物之善鳴者也。維天之於時也亦然、擇其善鳴者而假之鳴。是故以鳥鳴春、以雷鳴夏、以蟲鳴秋、以風鳴冬。四時之相推敘、其必有不得其平者乎。……中略……唐之有天下、陳子昂・蘇源明・元結・李白・杜甫・李觀、皆以其所能鳴。其存而在下者、孟郊東野、始以其詩鳴。其高出魏晉、不懈而及於古、其他浸淫乎漢氏矣。從吾遊者、李翱・張籍其尤也。三子者之鳴、信善矣。抑不知天將和其聲而使鳴國家之盛邪、抑將窮餓其身、思愁其心腸而使自鳴其不幸邪。三子者之命、則懸乎天矣。其在上也奚以喜、其在下也奚以悲。東野之役於江南也、有若不得釋然者、故吾道其命於天者以解之。

〔設問一〕傍線①「大凡……後言」を、口語訳しなさい。

〔設問二〕傍線②「陳子昂……李觀」の中から一人を選び、その人物の文学史的功績について簡潔に説明しなさい。

〔設問三〕傍線③「抑不……幸邪」について、(A)・(B)二つの問いに答えなさい。

(A) すべて平仮名による書き下し文、または現代中国語の発音記号(拼音)表記に改めよ。

(B) 口語訳しなさい。

□ 次のア～オの中から一つを選択し、その記号を解答欄に記した上で、説明ならびにあなたの考えを記しなさい。

- ア 「文言」と「白話」がもつ文学史的意味について
イ 白居易と「新樂府」について
ウ 中国文学の女性詩人について
エ 日中比較文学の研究方法について
オ 日本漢詩文がもつ国語教材としての意味について

□ 次の(A)～(J)の中から三つの項目を選び、それぞれの文学史ないしは文化史的意味を中心に説明しなさい。

- | | | | |
|-------------|--------------|------------|------------|
| (A) 風・雅・頌 | (B) 六書 | (C) 「典論論文」 | (D) 「李娃伝」 |
| (E) 王孟韋柳 | (F) 黄庭堅 | (G) 陸游 | (H) 「聊齋志異」 |
| (I) 「文鏡秘府論」 | (J) 李攀龍『唐詩選』 | | |

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

「選択七 近代文学」

一 日本の近代文学研究における作者について、あなたの考えを述べなさい。

二次の (A) ～ (E) の中から一題を選択して論じなさい。

- (A) 戯作文学について
- (B) 没理想論争について
- (C) 白樺派の文学について
- (D) 近代文学と病について
- (E) ジェンダーと文学研究について

三次の (A) ～ (G) の中から三題を選択して説明しなさい。
(「」は作品名、『』は雑誌名を示す)

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| (A) 『我楽多文庫』 | (B) 「田舎教師」 | (C) 平塚らいてう |
| (D) 「蔵の中」 | (E) 『種蒔く人』 | (F) 「野火」 |
| (G) 火野葦平 | | |

修士課程 一般入学試験問題

「専門科目・共通」 【国語教育専攻】

【共通一】

次の文章は野口裕二『物語としてのクア』（医学書院 二〇〇二年）の一節です。
これを読んで、あとの問い（次ページ）に答えなさい。

それでは、「自己」は、そもそも何のことであり、成り立っているものであるのか。この問題について、社会心理学者のガーゲン（Gergen, 1985, 1992, 1994）や文化心理学者のブルナー（Bruner, 1990）がそれぞれ興味深い考え方を示してきた。それを一言でいえば、「自己とはセルフ・ナラティブ self-narrative である」というものである。

この「セルフ・ナラティブ」にも当然のことながら、「物語」と「語り」という二つの意味が含まれている。つまり、「自己とは自己物語である」という意味と、「自己とは自己語りである」という意味である。いずれにせよ、自己がまず先にあってそれが自己の物語を語るのではなく、自己についての物語、自己を語る行為そのものが自己をいっぺんに作っているというのがこの主張の意味である。

まず、「自己とは自己物語である」という主張からみてみよう。たとえば、われわれはときおり、「自分とは何者か、本当の自分とは何か」という問い、いわゆるアイデンティティ問題に直面する。「自分が本望にしたいことがわからない」とか、「自分らしさがうまく表現できない」という場合もある。

このとき、自分のさまざまな属性、たとえば、年齢や性別や出身地や学歴などをいくつ列挙してみても十分な答えにはならない。また、自分のさまざまな能力、たとえば、スポーツが得意だとかカラオケが得意だとかをいくつもあげても十分ではない。それらはたしかに自分の重要な側面には違いないが、あくまで側面にしかすぎない。

わたしのもっともわたしらしい部分を語ろうとすると、それは、自分が生まれてからいままでのように生きてきたのかという「自己物語」の形式をとらざるを得なくなるはずである。自分はいままで、何に苦しみ、何に歡んできたのか。何に傷つき、何に感動してきたのか。誰と出会い、誰と別れてきたのか。何を手に入れ、何を失ってきたのか。そうして自分にとってのかけがえのない経験を語ったひとつの物語、それが、ほかならぬわたしらしさを構成するもっとも重要な要素となるはずである。右に述べた自分のさまざまな特徴も、そうした物語のなかに位置づけられてはじめて生き生きとした意味あいを帯びてくる。つまり、「自己は物語の形式で存在する」といえる。

次に、「自己とは自己語りである」という主張についてみてみよう。あらかじめ自己がもって自己のことを語るのではなく、自己についての語りがあることで、自己をつくり直していくという意味である。

わたしたちは、日々、自分を語りながら生きている。自分の過去の失敗談や成功談をひとに話すことがあるし、昨日起こった些細な出来事を話すこともある。あるいは、いまかかえている深刻な悩みや苦しみを、うれしい気持ちや楽しい気持ちを話すこともある。こうした自分についての「語り」が、自分の人生物語の一節として日々書き加えられていく。あるいは逆に、何を語ることで、すでに存在するもののうまでの人生物語に修正を加えたり変形したりすることもある。つまり、自己は「自己語り」によって更新されていく。自己を語ることは自己物語を改訂し更新していくことなのである。

ところで、あなた、わたしたちはあなた何気なく、自分とはどういう人間であるとか、自分の何が得意とかを語っている。しかも、それを語っている自己を語り出すと、とてつもない困難が待ちかまえている。自己は一体誰なのか。これを考えれば、「語っている自己を語っている自己を語っている自己を……」とどうも無限の深淵に陥ってしまふ。「自己」を本気で理解しようとするとき、水のような存在になってしまう。

もちろん、わたしたちはあなたこのような困難なことには陥らずに、安心して「自己」を語っている。それでは、何がそれを可能にしているのだろうか。それは、わたしたちが語りながらその「自己」

修士課程
一般入學試驗問題

【國語教育專攻】

をつくり直し確認しているからだと思えることができる。あらかじめ、確固たる自己があつて、それが何かを語っているのではなく、わたしたちは、語りながら自己を生み出し、変形したり増強したりしながら、自己を確認しているのである。

したがって、最初の問いに戻れば、いま語っている「自己語り」によってつくられてきた「自己」であると考えることが出来る。生まれてからいままでの「自己語り」が「自己物語」をつくってきた。そうやってつくられてきた「自己」が、いまあらためて「自己」を語りながら、それに修正を加えたり、いままでどおりであることを確認したり、それを補強したりしている。語ることで確かさを増すもの、それが「自己」なのである。

逆にいへば、「自己」は讀られなければ不確かな存在になってしまう。「自己」は以前の「自己語り」から時間がたつにつれて、しだいにその輪郭をぼやけさせ、不確かさを増していく。そのぼやけた輪郭を描き直す作業が「自己語り」なのだと考えることができる。もちろん、たとえ不確かであつてもとくに不都合がなければそれで問題はない。しかし、不確かさがそのひとを苦しめるとき、より確かな自己が必要になる。相対的に不確かな自己から出発して、より確かな自己へと至る作業、それが「自己語り」なのだといえる。

問

著者の言う「自己語り」とはどのようなものであるか本文を踏まえてまとめた後、それに必要な思考力や言語運用能力を培うために、「国語科教育」においてあなたならばどのような実践を行うかについて、具体的に記してください。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般入学試験問題

「専門科目・共通」 「国語教育専攻」

【共通二】

次の文章は『大鏡』の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ

さてまた、朱雀院も優におはしますところそは言はれさせたまひしかども、将門が乱など出でて、怖れ過ごさせ①おはしまししほどに、aやがて代はらせたまひにしぞかし。そのほどのことこそ、いとあやしうはべりけれ。母后の御もとに行幸せbさせたまへりしを、「かかる御有様の思ふやうにめでたくうれしきこと」など②奏せさせたまひて、「今は東宮ぞかくて見聞こえcまほしき」と申させたまひけるを、心もとなく急ぎ③思し召しけることにこそありけれとて、ほどもなく譲り④聞こえさせたまひけるに、后の宮は、「さも思ひても申さざりしことを。dただゆく末のことをこそ思ひしか」とて、いみじう嘆かせたまひけり。

さて、おりさせたまひて後、人々の嘆きけるを御覧じて、院より后の宮に聞こえさせたまへりし。国譲りの日、

日のひかり出でそふ今日のしぐるるはいづれの方の山辺なるfらむ
后の宮の御返し、

自雲のおりある方やしぐるらむgおなじみ山のゆかりながらに

などぞ聞こえはべりし。院は月ごろ、綾綺殿にこそおはしまししか。後はh少し悔い思し召すことありて、位にかへり即かせたまふべき御祈などせさせたまひけりとあるは、まことにや。

問一 傍線①「おはしましし」、傍線②「奏せ」、傍線③「思し召し」、傍線④「聞こえ」は

それぞれ誰に対する敬意を示しているか。次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

なお同じものを繰り返し選択してもよい。

イ 朱雀院 ロ 将門 ハ 母后 ニ 東宮 ホ 語り手

問二 傍線a「やがて代はらせたまひにしぞかし」を口語訳せよ。

問三 傍線b「させ」、傍線c「まほしき」、傍線e「り」、傍線f「らむ」の意味を次の中

からそれぞれ選び、記号で答えよ。同じものを繰り返し選択してもよい。

イ 過去 ロ 完了 ハ 願望 ニ 当然 ホ 過去推量

ヘ 現在推量 ト 使役 チ 尊敬 リ 意志 ヌ 詠嘆

問四 傍線d「ただゆく末のことをこそ思ひしか」はどのようなことを述べているのか、説明せよ。

問五 傍線g「おなじみ山のゆかりながらに」はどのようなことを述べているのか、説明せよ。

問六 傍線h「少し悔い思し召すこと」が具体的に示す内容を記せ。

問七 この文章の出典である『大鏡』と同じく、平安時代の宮廷史を中心に記した歴史物語を次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ 水鏡 ロ 増鏡 ハ 栄花物語 ニ とはすがたり ホ 神皇正統記

研究指導

教員名 ()

受験番号

氏 名

早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験 解答用紙

「專門科目」

【国語教育専攻】

大学記入欄

問題番号

選
択
()

裏面に続く

← 裏面を使用する場合ここから記入すること



↑ 裏面



研究指導	
教員名 ()	
受験番号	
氏 名	

二〇二三年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験 解答用紙

【専門科目】

【国語教育専攻】

大学記入欄

--

問題番号

共通一

裏面へ続へ

← 裏面を使用する場合ここから記入すること

↑

↑ 裏面 ←

↑

← 裏面を使用する場合ここから記入すること

←

↑ 101#67

↑